

令和7年度 武蔵野大学

学外学修プログラム

「宮城県石巻市 支援ボランティア

- ・ 放課後等デイサービス（障がい児） あっぷるじゃんぷ石巻
- ・ 多機能型事業所 あっぷるぷらす」

成果報告

- | | | |
|--------------|----|-----|
| ① あっぷるじゃんぷ石巻 | 畠中 | 麻衣 |
| ② あっぷるじゃんぷ石巻 | 江頭 | 聖加 |
| ③ あっぷるぷらす | 竹内 | 一翔 |
| ④ あっぷるぷらす | 西村 | 葉冬 |
| ⑤ あっぷるじゃんぷ石巻 | 喜多 | 葵 |
| ⑥ あっぷるじゃんぷ石巻 | 千田 | 梨緒 |
| ⑦ あっぷるぷらす | 豊田 | 菜々子 |
| ⑧ あっぷるぷらす | 臼杵 | 悠斗 |

放課後等デイサービス あっふるじゃんぷ石巻

○はじめに

私がこのプログラムを選んだ理由は将来福祉に関わる仕事に就きたいと思っていて実際の現場で障がいのある方々との接し方や生活支援の方法などを学びたいと思いこのプログラムを選びました

。

○実習内容

初日は震災遺構の MEET 門脇と宮城県の震災の被害を知れる資料館に行きました。2、3日目はあっふるじゃんぷで紙粘土作りと就労体験活動を一緒に行いました。

○経験したこと、学んだこと、など

震災遺構では津波の恐ろしさを改めて感じて津波警報が出てても家に忘れ物や家族を迎えに行ったりして逃げ遅れた人がたくさんいたことが分かりました。また、今は住めない地域があったり町全体がかさ上げされていたりと津波は住民の今後の生活にも大きく影響することが分かりました。

あっふるじゃんぷでは施設の子がひとつひとつの場面で挨拶をしっかりしていて大事にしていることをすごく感じました。紙粘土作りと就労体験では準備も自分たちでペアの子と協力しながら行ってすごいと思いました。作業の間に休憩の時間が設けられていて集中力が切れないような工夫がされているのだと分かりました。一人の子について1対1で支援をしてどうしてもやってあげちゃうことが多くそれだとその子のためにならないからなるべく自分の力でやったほうがいいけどどこまで支援をしてあげるかが実際支援をしてみてその加減がすごく難しいなと感じました。



○実習内容

5日目は女川駅の道の駅と女川原子力発電所見学に行って班に分かれて行動してお昼ご飯を食べたり震災遺構を見学したりしました。最終日には自分たちでプログラムを考えてオリジナルトートバッグを作りました。

○提案したこと、発信したこと

最終日にはオリジナルトートバッグ作りを提案しました。手順が分かりやすいようにホワイトボードにやり方と注意点を書いて説明しました。またイメージがわかりやすいように事前に自分たちで見本を作ってそれを見せながら説明しました。みんなが自分が好きなものとか思い出をバックに書いたりして素敵なバックが完成してうれしかったです。



○経験したこと、学んだこと

5日目の社会学習では子供たちが自分でお小遣いをもってお昼ご飯やおやつを計算して考えながら買っていて普段施設で活動を行うのもいいけど施設の外に出て班行動をしたり買い物学習をしたりするのも日常生活に大切なスキルを身に着けるのに繋がるのだと分かりました。最終日には分かりやすく説明しようとして説明とか手順をたくさん言葉で説明しようとして逆に複雑になってしまったかなと思ったけど見本を示すことで結構理解してもらえたので見本を示しながらやるのは大切なことだと分かりました。

○今後の展開、今後の学び、

今回あっふるじゃんぷで経験したこと学んだことをこれからの実習の現場で活かしたいと思ったし、今回びっくりしたのはぱっと見発達や知的に問題がないように見えてもいろいろな問題を抱えていたり自分と他の子との違いに葛藤していたり目には見えない部分で課題を抱えている子がいるということを知り、今後の実習でもこのことを忘れないで将来はいろいろな視点から支援でき寄り添えるような社会福祉士になりたいと思います。



プログラム概要 : 障がい者、障がい児が利用し、様々な体験を通し社会で必要な基本を学び、生活面の自立の向上また就労体験、訓練を行います。

実習先 : あっぷるじゃんぷ石巻

実習先情報 : 株式会社アップルファームにより2017年1月に開設された、「就労特化型」の放課後等デイサービス

参加人数 : 1班 4名

学部学科 : 社会福祉学科、教育学科、数理工学科、教育学科

実習期間 : 令和7年8月3日～8月8日

本学担当教員 : 大谷純平(入試科)

② 1班 あっぷるじゃんぷ石巻 江頭 聖加

○実習内容

女川町見学

道の駅女川周辺散買い物の補助

利用者さんとお店で昼食

○経験したこと、学んだこと、など

午前中は利用者さんと道の駅女川周辺を散策しました。中での活動とは違いお小遣いでお土産や昼食を摂りました。初めての場面や経験がたくさんあり、少し会談を登るのに時間がかかったり、何かに手こずっていても、最終的には自分の力でできることに対して、つい手を差し伸べてしまいました。でも、その行動の中で本当は自分の力でできることなのに、私が手を差し伸べてしまったことで、その利用者さんの成長の機会を奪ってしまったかもしれないと気づきました。たとえ少し時間がかかってしまったとしても、見守ることも支援の一つであり、その人の力を信じて待つことの大切さを実感しました。



○今後の展開、今後の学び、など

今回の学びを通して、これからはただ「手伝う」だけではなく、「見守ること」も支援のひとつとして大事にしていきたいなと思いました。時間はかかっても、その人が自分でできたことは自信につながり、次の挑戦にも繋がる、これからは見守ることも忘れず、その人の力を信じて関わっていききたいと思います。



○実習内容

私たちが考えた世界で一つだけのトートバッグを利用者さんたちに作成してもらう。

○提案したこと、発信したこと、等

利用者さんには、好きな絵、言葉などを使って、自分らしさをたっぷり詰め込んだオリジナルバッグを作ってくださいというように伝えました。完成したバッグは、世界に一つだけの特別な宝物になるように発信しました。



○経験したこと、学んだこと

利用者さん一人ひとりが自由に表現し、夏休みの思い出を描く子や、自分の感性で動物を鮮やかに描く子など、多様な発想に驚かされました。私はこれまで「形にすること」や「上手に描くこと」にとらわれがちでした。しかし、この体験を通して大切なのは自分らしさを表現することだと気づきました。利用者の姿から、多様性を尊重することを改めて学びました。

○まとめ

今回の実習で、実際に障がいのある子どもたちと関わることができるを知ったとき、「実際に関わって見ることで、私にも何かできることが見つかるのではないか」と思いました。正直、不安もありましたが、だからこそその4日間でどんな行動ができるのかを自分なりに探して見たいという気持ちも強くなりました。



③ 1班 あっふるぷらす 竹内 一知

○はじめに

私は石巻市にある多機能型事業所自立訓練（生活訓練）就労支援 B 型事業所あっふるぷらすに訪問しました。私がこの FS を選んだ理由は私の叔父が障がいを持っており、小さいころから障がい者の方と関わるが多かったのですが、実際にそのスタッフがどのように接しているのか、どのような対応をすればよいのかなどを知りたいと思いこの FS を選びました。

○実習内容

一日目は東日本大震災の被災地となった石巻市の MEET 門脇と門脇小学校へ訪れました。

二日目以降はあっふるぷらすで自立訓練ではどのような活動をしているか、地域の方々とどのように関わっているかなどを学びました。

○学んだこと（震災について）

当時5歳だったということもあり、私自身東日本大震災の頃の記憶がほとんどなくテレビなどで当時の様子を拝見してもいまいち実感がわきませんでした。ですが、実際に被災地へ訪問したことにより分かったことがたくさんありました。

実際に門脇小学校を訪れた際に窓がすべて壊されており、学校の最上階まで津波が来たのだなど実感させられました。他にも MEET 門脇では避難した人たちに話を聞き当時の人たちがどのような動きで避難をしたのかが分かったり、亡くなってしまった方の遺品を拝見したり、心が痛むような経験をしました。ですが、実際に被災地に行ったことにより今まで以上にこのことを忘れてはならないという気持ちになり、今でも苦しんでる人の手助けはしたいという思いがとて強くなりました。



○学んだこと（あっふるぶらす）

私がい実際にあっふるぶらすに訪問した際に多くのことについて学びました。

まず私自身がこのような社会の場に出ることが初めての経験であり分からないことだらけだったのですが、スタッフの方が優しく、分かりやすく説明してくださり、とても早い段階で慣れることが出来ました。最初に私は利用者さんたちのメリハリの能力の高さに驚かされました。タイマーを使い休憩の時間を区切っていたのですが、休憩始まりのタイマーが鳴るとキリが悪くても作業をやめて休憩にいき、休憩終わりのタイマーが鳴るとすぐに行動して自分の作業に取り掛かることが出来ていて、自分もそうなのですが、もうちょっと休憩したいと思ひ時間を先延ばしにしてしまうことがとても多いので、私も利用者さんを見習ってしっかりとメリハリをつけることが出来るように心がけないといけないと実感させられました。

次に個人差はありますが、利用者さん1人1人の吸収能力の高さに驚かされました調理実

習をした際に一度説明をただけですぐに取り入れることが出来ており、私は自分勝手ではありますがもう少し出来ないと思ひており、偏見などから変な先入観を入れてしまっていたことに申し訳なさを感じていました。他にもオリエンテーションで作品を作ってもらふ際に自分たちの想定していた時間よりも利用者さんの作業スピードがとても早く逆に時間を余らせてしまったりして、障がい者だからできないという考えは間違っていることにこの五日間で気づかせられました。最後にスタッフの方々の対応能力のすごさに驚きました。利用者さんがスタッフの方にこれを貸してほしいと聞きたいときにも名前を言うだけでも伝わる人が多いのですが、それでは将来社会に出た際にちゃんとした言葉で発言をすることが出来なくなってしまうからしっかりと最後まで言おうと教えていたり、名前を呼ばれないで話しかけられたら反応をしなくて、名前を呼ばれたら反応をするなどのように実際に利用者さんが社会に出た際にしっかりとした発言を身につけさせるために日頃から心がけていて、そのような些なことにも注意を払う必要があるということを知りました。

○まとめ

このFSを通して最初は利用者さんに私が教えに行くものだと思ひていたのですが、逆にその利用者さんに教わることの方が多く、社会の場に出てみると自分の想像していた通りにならなく、大変なことばかりだという事を深く学べるようなとてもよい六日間であったと思ひました。

1班 あっふるぷらす 竹内 一知



プログラム概要 : 障がい者、障がい児が利用し、様々な体験を通し社会に必要な基本を学び、生活面の自立の向上また就労体験、訓練を行う。
 実習先 : 多機能型事業所 あつぷるぷらす (宮城県石巻市)
 実習先情報 : 2021年4月に開設され、基本方針は、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持と向上のために必要な訓練を行う。対象年齢18歳以上。地域社会との交流を図りながら地域生活が営めるように支援する。
 参加人数 : 4名
 学部学科 : 教育学部教育学科
 実習期間 : 令和7年8月3日～8月8日
 本学担当教員 : 武田憲明

④ 1班 あつぷるぷらす 西村 葉冬

○はじめに

宮城県石巻市の震災関連施設 (MEET門脇・門脇小学校) と多機能型事業所 [自立訓練 (生活訓練) /就労継続支援B型] あつぷるぷらすを訪問した。

このプログラムを選んだ理由: 特別支援教諭を目指しており、障がいをもつ利用者の方と直接関わりを持ちたいと考えていたため、このプログラムは直接関われる良い機会だと感じたため。

○実習内容

初日: 震災学修 (MEET門脇・門脇小学校)

二日目以降: 自立訓練・就労作業・生活総合訓練・SST (多機能型事業所 [自立訓練 (生活訓練) /就労継続支援B型] あつぷるぷらす)

○経験したこと、学んだこと、など

【震災学修】

東日本大震災の時の石巻の被害の様子について、遺品や被災者のエピソードを見たり、聞いたりした。

被害が大きくなっていた背景には、津波や地震の揺れに関する誤った知識や思い込みが関係していることに気づいた。例えば、「大きい津波は潮が引いたときにしか起こらない」のように、地震発生後に海の近くにいた被災者の中でも伝えられていた誤情報が甚大な被害へと導いていた。⇒被災者の災害発生後の混乱の気持ちに付け込んだ悪質な誤情報や、近年では急激なSNSの発達も相まってデマには気を付けなければならぬと感じたと同時に、同じような被害を増やさないために震災学修によってこのような気づきを行える機会をこれからも多くの人に設けるべきだと感じた。

【多機能型事業所】

自立訓練では表現活動や調理実習を行い、就労継続支援B型では地域の会社から貰った仕事に取り組む時間が設けられ、SST・生活総合訓練ではお金の計算など社会に出たときに必要となることの訓練を行った。



就労作業では同じ作業を集中してひたすら繰り返すことが得意な利用者さんが多く、集中力に驚いた。タイマーを設け、休憩と作業の切り替えを明確にしていた。とても切り替えが早く、私自身見習わなければ！と思わされる場面だった。



調理実習では、利用者さんと協力してチョコバナナを作った。

私は、バナナにチョコをかける担当で、利用者さんがバナナを回すことで全体にかかるようにしていた。

初めジェスチャーと一緒に「回してください。」と声をかけて作業を進めていたが、途中から利用者さん本人の判断で回すタイミングが分かるようになっており、発話が困難でもすぐ習得し作業に慣れる姿に感銘を受けた。

全体的に、ホワイトボードに予定が分かるように書いていたり、お金の計算訓練の際には大小が分かりやすい表を作っていたり、座席表のようなマグネットを用意していたりと、視覚情報がとても大切であることを学んだ。カタカナにもふりがなをふってあり、一人ひとりのペースに違いにも対応できるような工夫が多くされていた。

事業所は社会の場であるため、スタッフさんは利用者さんが行動するまでやってあげるということはなく、「やってほしいなら何と言うんだっけ？」と声をかけたり、難しい仕事でも初めからやらせないのではなく、やってみてから簡単になるように工夫したりと利用者さん本人の自主的な行動を大切にしていた。

やってあげるという親切心は、本人のためにはならず将来の本人の行動を狭めてしまう。ということを感じ、答えではなく答えを導くためのヒントを出してあげられるような対応が求められているのだと感じた。

○今後の展開、今後の学び、など

実習先で学んだ「限界を決めない」「やってあげるのではなく、答えを導くためのヒントを与える」「本人の自主性を大切にする」ということ胸に、何事も決めつけずに「まずは取り組んでみよう！」という精神で行動したり、教える側の立場になった時に「やってあげることは本人のためにならない」ということを忘れてはいけないと強く感じた。

○まとめ

実習先で学んだことは、本当の支援とは、親切心からすべてやってあげてしまうのではなく本人の将来のためになるものであり他人が決めつけたり、この仕事ならできるだろうからお願いするという形ではない。本人の可能性を信じ、TRYの精神が大切である。発話難しくても、コミュニケーションをたくさん取れたりしたので、表情やジェスチャーなど視覚情報がとても大きな役割を果たす。

宮城県石巻市 放課後等デイサービス（障がい児）あつぷるじゃんぷ石巻

プログラム概要	： meet門脇での震災学習・あつぷるじゃんぷ石巻での活動
実習先	： 放課後等デイサービス（障がい児）あつぷるじゃんぷ石巻
実習先情報	： 18歳までの障がい児に向けた就労支援・サービス
参加人数	： 2名
学部学科	： 社会福祉学科、教育学科
実習期間	： 令和7年8月17日～8月22日
本学担当教員	： 武田憲明先生（教育学科）

⑤ 2班 あつぷるじゃんぷ石巻 喜多 葵

○はじめに

今回のFSで、私は様々なことを学ぶことができました。私がこのFSを選んだ理由としては、元々子どもに興味があり、同時に放課後等デイサービスの運営について知りたいと考えていたからだ。また、震災についても知識を増やしたいと思い、参加した。

○実習内容

震災学習

- meet門脇・門脇小学校にて学習活動を行った
- meet門脇では震災を経験した若者のエピソードが印象的だった
- 門脇小学校では様々な視点から3.11について考えることができた
- スタンラリーで自分の防災意識の傾向について知ることができた



活動①

- あつぷるじゃんぷにて支援活動を行った
- 利用者さんの創作活動や就労体験をサポート・声かけをした
- 個々人の特性に合わせた声かけが難しいと感じた
- 徐々に利用者さんと会話ができるようになり、やりがいを感じることもあった



活動②

- 最終日は私たちが主体となって活動した
- 企画・準備・運営の全てを考え実行するのは大変ながらも楽しむことができた
- 当日は想定よりも多く遊ぶことができ、利用者さんには楽しんでもらったので安堵した



○提案したこと、発信したこと、等

最終日の企画はメンバーで話し合い、輪投げにした。事前に輪投げの台と輪を作り、利用者さんには実際に遊んでもらった。ルール説明は声で説明する役と実演する役に分かれて行ったため、ほとんどの人が理解することができたように思う。また、今回のルールとして自分の得点を自分で計算して得点を出すようにした。これは、他の活動で計算の練習をしている場面をよく見かけたために、そうした普段の学びを活かせるような場があると利用者さんも成長や喜びを感じられるのではないかと考えたからである。

○経験したこと、学んだこと

一日目は震災学習が主だったが、ここでは震災の悲惨さや、被災者の思いを知ることはもちろん、自分の防災意識の傾向がわかるスタンプラリーで、様々なシチュエーションにおける行動を考えることができ、学びになった。例えば、『みんなが安全に家の外に出られるようにするには』という設問では『棚やタンスを固定しておく』『近所の人たちと避難訓練をする』など各設問ごとに5つスタンプがあり、自分ならどうするかを具体的に考えることができる。そして集めたスタンプから、自分のタイプを知ることができ、私は自助タイプだと分かったので、他のタイプの考え方も参考にしたいと思った。二日目以降はあっぷるじゃんぷでの活動を行った。はじめは慣れない環境からなかなか利用者さんと話すことはできなかったが、放課後等デイサービスの一日を直接見てみると、想像していたよりも学校や学童保育といったものに近い場所のように感じた。しかし、それらと違い日によって活動が異なり活動の内容が決められていることが分かった。日を重ねるごとに利用者さんと打ち解けて行き会話ができるようになるのと、彼らが障がいを持っていない子どもと変わらない興味や感性を持っていることに気が付いた。同時に障がいの有無で全く違う人と捉えていた自分の考えの偏りに気が付くことができた。

○今後の展開、今後の学びとまとめ

今回のFSで、自分の目で見ることの重要性を改めて感じる事ができた。これからは自分の価値観や知識だけに頼らず、実際に確かめたり実践したりする気持ちを忘れずに学び続けていきたいと考える。

宮城県石巻市放課後デイサービス（障がい児）あつぷるじゃんぷ石巻

プログラム概要：東日本大震災の痕跡を留める震災遺構である門脇小学校などの訪問とあつぷるじゃんぷに訪問し、就労特化型・放課後等デイサービスについて学んだ。

実習先：放課後デイサービス（障がい児）あつぷるじゃんぷ石巻
 実習先情報：石巻市の障害者向けサービス&支援組織
 参加人数：2名（2班）
 学部学科：教育学部教育学科、人間科学部社会福祉学科
 実習期間：令和7年8月17日～8月22日
 本学担当教員：武田憲明（教育学科）

⑥ 2班 あつぷるじゃんぷ石巻 千田 梨緒

🌸 はじめに

私は、東日本大震災の痕跡を留める震災関連の施設と石巻市にある放課後デイサービス（障がい児）あつぷるじゃんぷに訪問した。このプログラムを選んだ理由は、私は将来小学校教員を目指すだけではなく、特別支援の教員免許取得を目指してるので、学校教育の場では得られない、個別支援についてや、生活に密着した支援の実際を学びたいと思ったからだ。また、同時に私自身も東日本大震災を経験したこともあって、震災について、当時何が有り、どんな思いをしたのかについて詳しく知りたいと思い、今回このプログラムに参加した。

👤 実習内容

初日にはMEET門脇と門脇小学校に訪問し、津波の恐ろしさを体感するだけではなく、適切な避難行動の大切さについても考えさせられた。

残りの5日間はあつぷるじゃんぷに訪問し、就労特化型・放課後デイサービスについて学ぶだけではなく、施設の利用者さんたちと一緒に活動する上で、個別支援計画への理解も深めることができた。

🌀 経験したこと、学んだこと（MEET門脇と門脇小学校）

MEET門脇では、施設のプロジェクションマッピングや展示を通して、震災当時の避難行動や、遺族の思いなどを深く知ることができた。津波を経験した人々の声や体験談を聞くことで、当時の人達の思いを知ると共に、災害を「過去の出来事」ではなく、「未来の教訓」として捉え直す機会を与えてくれた。門脇小学校では、津波火災による規模の痕跡を目の当たりにすることで、自然災害の恐ろしさを肌で感じることができた。両施設を通して、単に過去を振り返るだけではなく、その経験を活かして、津波がいざ来た時の避難場所や、連絡手段を確認しておくことの大切さを改めて学ぶことができた。



🌀 経験したこと、学んだこと（あっぷるじゃんぷ石巻）

あっぷるじゃんぷでは、施設内就労体験や駄菓子買い物体験、沢遊びなどを行った。実際に自分が様々な障害を持っている子と関わる中で、「その子に合った対応」を見つけていくことの大切さを学んだ。一人ひとり、何が得意で、何が苦手なのかを理解し、コミュニケーションをとる際には、言葉だけではなく、表情や仕草など非言語的なコミュニケーションにも意識を向けることが大切だと気づくことができた。初日はどう関われば良いのかがわからず、戸惑ってしまったが、2日目以降にあった沢遊びなどで、一緒に水を掛け合い遊ぶことができ、利用者さんと仲を深めることができた。仲を深めるにつれて、利用者さん達も私に話しかけてくれることが多くなり、昼休みにも「一緒に遊ぼう」と声をかけてもらう事ができてすごく嬉しかった。また、朝の朝礼や送り迎えでは、一人ひとりの子の情報を共有するだけではなく、連絡帳などがあることによって、保護者との連携もとり、利用者の方達をサポートしていると学ぶ事ができた。



💡 提案したこと、発信したこと

最終日には輪投げを行った。

輪投げでは、点数がついている棒に輪を入れるだけではなく、自分が入ったところの点数を計算し、合計点数を競わせ、点数が一番高かった人には景品を渡す形式にしてゲームをみんなで楽しんだ。この輪投げでは、単に楽しむだけではなく、利用者さんの集中力の向上や、点数を数えたり、「ど子に投げれば良いか」を考えることで認知的刺激にもなった。



💖 今後の展開、今後の学び、まとめ

今回このプログラムを通して震災では、「命を守るための判断」や、「日常生活における訓練の重要性」について深く考えさせられ、あっぷるじゃんぷでは、障害を持っている方との関わり方や、個別支援計画への理解を深める事ができた。今回のプログラムでは、初めての事ばかりで大変なことも多かったが、実際に障害のある方と関わることで、自分自身の強みや、課題も見つける事ができ、特別支援の資格も取りたいという目標がさらに現実的になった。今回の実習から、「その子に合った対応」を見つけていることの大切さを学ぶ事ができたので、この経験を自分の将来の夢である、小学校の教員になった際にも活かしていきたい。

宮城県石巻市多機能型事務所 【自立訓練（生活訓練）/就労継続支援B型】あっぷるぷらす

プログラム概要	： 東日本大震災の当時の状況を学べる施設を訪問し、また「あっぷるぷらす」では、障がいのある方々の生活や訓練の様子を見学した。
実習先	： 多機能型事務所あっぷるぷらす
実習先情報	： 石巻市の障がい者向けサービス&支援組織
参加人数	： 2名(2班)
学部学科	： 数理工学科、会計ガバナンス学科
実習期間	： 令和7年8月17日～8月22日
本学担当教員	： 武田憲明（教育学科）

⑦ 2班 あっぷるぷらす 豊田 菜々子

○はじめに

私は、震災関連施設と、多機能型事務所 自立訓練(生活訓練)あっぷるぷらすを訪問しました。障がいのある方との交流を通して新たな視点に触れ、どのような方々なのか、またどのように関わればよいのかを学びたいと思いました。また、震災の様子を自分の目で確かめたいという思いから、この訪問先を選びました。

○実習内容

初日には、災害の爪痕がそのまま残る門脇小学校と、伝承交流施設であるMEET門脇を訪問しました。

それ以降の日程では、“あっぷるぷらす”という施設で障がいのある方々と交流し、調理実習を行ったり、アート・清掃・学習など様々な活動の様子を見学しました。

○経験したこと、学んだこと、など

MEET門脇や門脇小学校を訪れ、自分の目で被害の大きさを確かめたことで、東日本大震災の想像を超える悲惨さに驚き、災害の現実を強く体感することができました。実際に訪れることでしか得られない学びも多く、見学できて本当に良い経験になりました。



門脇小学校



MEET門脇

あっぷるぷらすでは、アート・清掃・学習などの活動を見学したり、一緒に調理実習を行いました。利用者さんの姿を見てみると、活動中は常に真剣で丁寧に取り組んでいる一方、休憩になると賑やかにワイワイと過ごしていました。その「活動中と休憩のON/OFFの切り替え」がとても印象的で、私自身も見習いたいと感じました。

この施設では“自立”を目標としており、家ではやらないことをここで取り組むという形をとっていると、スタッフの方から教わりました。スタッフの方は何でも代わりにやるのではなく、「やらせてあげる」「見守る」という姿勢を重視しています。だからこそ、利用者さんの自主性に任せることの大切さを学ぶことができました。さらに、スタッフの方が利用者さんに話しかける際には、難しい言葉を使わず、ゆっくりとわかりやすい表現をしていました。その心がけにより、利用者さんが安心して活動に取り組んでいる姿を見て、その関わり方の大切さを実感しました。



お金の勉強中↑

↑調理実習↑

↑500円分ぴったり買えるかを考えながらお買い物

○提案したこと、発信したこと、等

最終日には絵合わせゲームをしました。カードに絵を描くところから始め、準備段階からみんな集中して取り組んでくれました。その結果、世界に一つだけのカードを作り上げることができました。ルール説明もきちんと聞いてくれて、みんなで充実した楽しい時間を過ごせました。楽しんでくれている姿を見て、大きなやりがいを感じ、とても嬉しかったです。



みんなで準備中



完成したカード→



ルール説明中↑

ゲーム中→



○今後の展開、今後の学び、まとめ

今回の学外学修を通して、災害について改めて考えるきっかけを得るとともに、障がいのある方との関わり方を学ぶことができました。利用者さんの物事に真剣に向き合う姿勢など、見習いたいと感じる点が多くありました。一方で、単純作業やルーティーンを得意とする反面、作業を1時間ほど続けると少し飽きてしまう傾向があることも分かり、実際に接する中で理解を深められました。今後、利用者さんのような方と関わる機会があれば、積極的に関わりながら、今回の学びを活かして自信を持って接していきたいです。

また、いつもフレンドリーな利用者さん、優しいスタッフさん、共に活動してくれたメンバーに支えられ、刺激を受けながら充実した時間を過ごすことができました。「あっぷるぷらす」という場で学ぶことができ、本当に貴重な経験となりました。ありがとうございました。



- プログラム概要 : 障がい者、障がい児が利用し、様々な体験を通して社会に必要な基本を学び、生活面の自立の向上また就労体験、訓練を行う。
 主な活動内容は、利用者様の支援、スタッフ補助、活動のプログラム企画や実施、清掃など。
- 実習先 : 多機能型事業所 あつぷるぷらす
 実習先情報 : 2021年4月に開設された。
 基本方針は、自立した日常生活や社会生活を営むことが出来るよう、生活能力の維持と向上のために必要な訓練を行う。
 対象年齢は18歳以上。
 地域社会との交流を図りながら地域生活が営めるよう支援する。
- 参加人数 : 2名(2班)
 学部学科 : 工学部、数理工学科
 実習期間 : 令和7年8月17日～8月22日
 本学担当教員 : 武田憲明

⑧ 2班 あつぷるぷらす 臼杵 悠斗

○はじめに

今年で19歳を迎える私は東日本大震災当時の記憶がほとんどありません。私は当時も関東にいましたが大変影響を受けていたと聞いています。近い将来、社会に出る身として東日本大震災で甚大な被害を受けた地域について直接知りたいと思い訪問しました。また、教職に就くことを見据えて障がい児、障がい者との関わりを私自身の経験値として得たいと思い志望しました。

今回の実習では、最終日に私たち実習生が企画した交流内容で1日を楽しむことになりました。本レポートでは最終日の様子を写真と合わせてまとめます。

— 午前 —

午前は利用者の皆さんがカードに決められたお題で絵を描いてくれました。それぞれの色使いや丁寧さが印象的でした。



— 午後 —



午後は利用者の皆さんが2チームに分かれ、「チーム対抗 絵合わせゲーム」を実施しました。同じチームのメンバーがカードを獲得すると、ハイタッチをして喜ぶ様子が見られ、大変良い雰囲気で行えたと思います。

初めは多少の緊張や不安があったものの、利用者の皆さんの明るい性格やスタッフの皆さんの優しさなど「あっぷるぷらす」の温かい雰囲気を感じ、安心感を覚えました。普段の様子を観察していると、利用者さんの「できた!」という成功体験を積み重ねていくことが重要だと思いました。そこで最終日の活動は「成功体験」を意識し、それに加えて「メンバーと仲良く」を重視しました。また、私たちが企画したものを楽しんでくれるか心配していましたが、準備からゲームまで楽しんでもらったようで良かったです。今回の実習で「人との関わり方」を改めて見直し、学ぶ機会を得られたと思います。大変貴重な機会をいただいたあっぷるぷらすの皆さんをはじめ、関わってくださった皆さんに感謝し、本レポートのまとめといたします。